



小杉亮子

(埼玉大学大学院人文社会科学研究所)

学生運動の「その後」

— 1960年代から1980年代まで

Chelsea Szendi Schieder

(青山学院大学経済学部)

From Striking Students to Stinking Fish:  
The campus-based New Left  
in the context of anti-rationalization  
“struggles” in postwar Japan

Christopher Gerteis

(SOAS University of London)

Shifting Sands: Tracking  
the ‘Political Awareness’ of Japan’s  
Sixties Generation (1973-1988)

# ニューレフトは誰と闘ったのか？

— 日本管理社会とポスト70年の抵抗

## WHO DID THE NEW LEFT FIGHT AGAINST?

JAPANESE CONTROLLED SOCIETY AND RESISTANCE AFTER 1970

William Andrews

(上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究所)

内ゲバと「敗戦」

～新左翼のメランコリーと記憶

安藤丈将

(武蔵大学社会学部)

「ニューレフト運動と

市民社会」再考

福家崇洋

(京都大学人文科学研究所)

革命と文化

— ポスト1969と京大西部講堂

Mahon Murphy

(京都大学大学院法学研究所)

Hardcore Punk in Kyoto:  
Connecting Radical Spaces  
and Radical Music

Till Knautt

(京都大学人文科学研究所)

Making another Vietnam:  
the Japanese New Left Peace  
Movement and the 1982 War  
in Lebanon

[司会]

小堀 聡

(京都大学人文科学研究所)

2024年11月30日(土)

10時30分～17時30分 | 対面にて実施

京都大学人文科学研究所4階 大会議室

言語: 日本語・英語



[主催]

京都大学人文科学研究所 〒606-8501 京都市左京区吉田本町

[共催]

京都大学人文科学研究所附属人文情報学創新センター

問い合わせ: 京都大学人文研アカデミー

Tel. 075-753-6902 (平日9:00-17:00)

e-mail. z-academy@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

(人文研アカデミー専用メールアドレスのため、総務掛宛のお問い合わせには対応できません。)

<https://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp>



1960年代後半に大学闘争が勃発し、全共闘運動の若い活動家たちは、自分たちが誰に対して抵抗しているのかを理解していた。彼らは大学当局、学生右派、共産党、そして最後には警察に抵抗していた。日本の大学構内のバリケードが解体された後、学生、若い労働者、新左翼の党派の活動家たちは、機動隊、交通警察、私服警官と対峙することになった。そして、彼らは国家権力と戦っているのだが、1970年代を通じて、暴力は増加したものの、彼らの戦闘性の困難さは目に見えるようになった。ニューレフトの活動はどのように再編成され、誰が「革命」に立ち向かう「敵」となったのか。新左翼と積極的に戦う歴史的アクターは誰だったのか。本ワークショップは、抗議と反抗の力学に焦点を当てることで、1970年代の日本ニューレフトの歴史と繋がったエージェンシー、政治的利益、理論と実践の転換に光を当てることを目的としている。



1981年、Brokdorf原子力発電所



### 小杉亮子

(埼玉大学学術院人文社会科学部)

専門: 社会学、社会運動史

主要業績: 『東大闘争の語り——社会運動の予示と戦略』新曜社、2018年  
 『「1968」を編みなおす——社会運動史研究2』新曜社、2020年(共編)  
 『1960年代学生運動における新しい組織像と予示的政治の可能性——所美都子の運動論と1968~69年東大闘争を中心に』『大原社会問題研究所雑誌』759、2022年



### 安藤丈将

(武蔵大学社会学部)

専門: 政治社会学、社会運動史

主要業績: 『ニューレフト運動と市民社会「六〇年代」の思想のゆくえ』世界思想社、2013年  
 『脱原発の運動史 チェルノブイリ、福島、そしてこれから』岩波書店、2019年  
 『香港を耕す農による自由と民主化運動』岩波書店、2024年



### Chelsea Szendi Schieder

(青山学院大学経済学部)

専門: 戦後日本の社会運動史、ジェンダー論

主要業績: 『Temporalités dissonantes du passé et du futur dans une communauté pétrochimique au Japon』(Dissonant Temporalities of Past and Future in a Petrochemical Community in Japan) *Vivre et lutter dans un monde toxique. Violence environnementale et santé à l'âge du pétrole. (Living and struggling in a toxic world: Violence and health in the age of oil)* Ed. Renaud Bécaut and Gwenola Le Naour. Le Seuil, 2023. 『共に生き延びるために: コロナ禍におけるジェンダー的リスク、矛盾、機会』『年報政治学』2022-1 (2022年6月): 76-95.  
 Coed Revolution: The Female Student in the Japanese New Left. Duke University Press, 2021.



### 福家崇洋

(京大大学人文科学研究所)

専門: 近現代日本社会運動史、思想史

主要業績: 『戦後歴史学の明暗』『人文学報』122号、2024年6月  
 『社会大衆党結党過程の検討』法政大学大原社会問題研究所・榎一江編『無産政党の命運 日本の社会民主主義』法政大学出版局、2024年  
 (共編)『思想史講義』筑摩新書、2022~23年



### Christopher Gerteis

(SOAS University of London)

専門: History

主要業績: 『Mobilizing Japanese Youth: The Cold War and the Making of the Sixties Generation, 2021.』  
 Gender Struggles: Wage-Earning Women and Male-Dominated Unions in Postwar Japan. Harvard East Asian Monographs 321. Cambridge, Mass: Harvard University Asia Center : Distributed by Harvard University Press, 2009.  
 Gerteis, Christopher, and Timothy S George, eds. Japan since 1945 from Postwar to Post-Bubble. London; New York: Bloomsbury Academic, 2013.



### Mahon Murphy

(京大大学大学院法学研究科)

専門: International History

主要業績: S.O.B.'s Don't be Swindle (Co-Authored with Ran Zwigenberg) Bloomsbury 2025.  
 'Family, Global Conflict, and Imperial Migration: Paul Messi's First World War', in *Immigrants and Minorities*, (August 2024).  
 'Global War and Anti-Radical Legislation: Japan and the Peace Preservation Law of 1925', in *First World War Studies*, Vol 14, Issue 1, 2023.



### William Andrews

(上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科)

専門: 社会運動史、文化史

主要業績: 『Tokyo 2020's Celebration Capitalism: The Struggle over Public Space and Parks』『Review of Japanese Culture and Society』33号、2021年  
 『Anti-2020 als transnationale Bewegung: Die Schaffung autonomer Räume durch internationalen Protest und Solidarität』Steffi Richter, Andreas SinglerとDorothea Mladenova編『NOlympics. Tokyo 2020/1 in der Kritik』Leipzigiger Universitätsverlag社、2020年  
 『Dissenting Japan』Hurst社、2016年

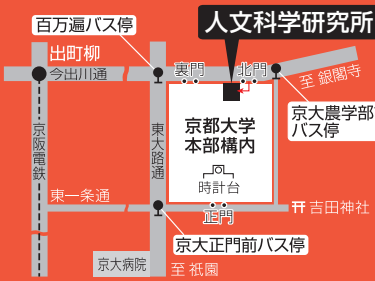


### Till Knaut

(京大大学人文科学研究所)

専門: 日本近現代史

主要業績: 2016 Von Revolution zu Befreiung: Studentenbewegung, Antimperialismus und Terrorismus in Japan (1968-1975). Frankfurt a. M.: Campus. 2021 『1920/1930年代 反体制派のなかの反対派「転向」と「山川イズム」、左派社会主義労働組合運動』新谷卓・中島浩貴・鈴木健雄編著『歴史のなかのラディカリズム』彰流社。  
 2020 "A Farewell to Class: the Japanese New Left, the Colonial Landscape of Kamagasaki and the Anti-Japanese Front (1970-1975)." *Journal of Japanese Studies*, Vol. 46 No 2, pp. 395-422.



- 京阪電鉄  
[出町柳駅] 下車徒歩15分
- 市バス  
3・31・65・201・206系統「百万遍」下車  
7・203系統「京大農学部前」下車徒歩1分
- hoopバス  
[京大大学前] 下車徒歩8分

※駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用ください。



### 小堀 聡

(京大大学人文科学研究所)

専門: 日本経済史

主要業績: 『青空がほしい再訪』『人文学報』122号、2024年6月  
 『京急沿線の近現代史』クロスカルチャー出版、2018年  
 『日本のエネルギー革命』名古屋大学出版会、2010年